

お客さま及び関係各位

福島原発事故に伴うお知らせ（第4報）

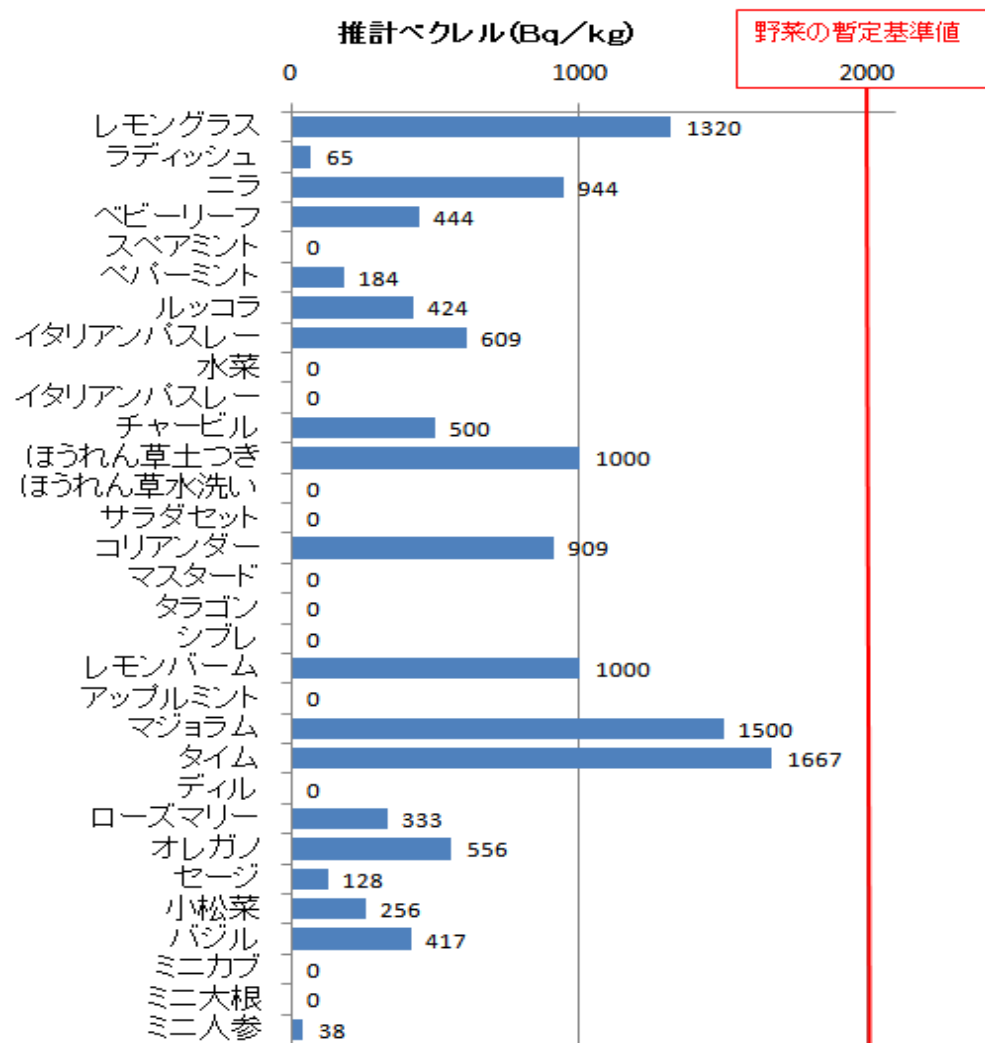
福島原子力発電所の事故による放射性物質の拡散に伴い、農産物への直接的影響が懸念されております。このような状況に際し、弊社では茨城大学応用粒子線科学専攻 高妻孝光教授にご尽力頂き前回の報告に続き全品目を対象として放射線分析を行いました。

下記に第1～3報でお伝えした3点と合わせて右図にこれまでの全分析結果を示します。

- 1)福島第一原発から生産拠点までの直線距離は約200kmです。
- 2)出荷品目は全てハウス栽培です。
- 3) 弊社主要出荷品目を分析した結果いずれにおいても暫定基準値を下回っていることが確認されました。

弊社ではこれらの情報から弊社の生産品目については放射性物質の影響が少なく安全性が確認されたものと判断しております。しかし今後も継続的に放射性物質の影響を監視していく必要があると考え、分析を継続してまいります。

また、原発事故以来多くの皆様から暖かいお心遣いのご協力を頂きました、改めて心より感謝申し上げます。今後も関係諸機関から出される情報と科学的な分析結果を基に安心・安全な野菜づくりに努めてまいります。これからも皆様方の変わらぬご協力、お付き合いをお願い申し上げます。



平成23年4月10日 株式会社 シモタファーム
〒302-0036 茨城県取手市貝塚192
TEL: 0297-78-8239 FAX: 0297-78-7661

図. シモタファーム主用出荷品目の放射線量

1) 測定方法：文部科学省 原子力安全課防災環境対策室「緊急時における放射性ヨウ素測定法」(平成14年改正) 2) 測定機器：NaIシンチレーション式サーベイメータ(TCS-161型) 3) 測定者：茨城大学 応用粒子線科学専攻 高妻孝光教授 4) 測定条件：5または8mmの鉛遮蔽板を使用

補足：図中の値は上記の方法により放射線量($\mu\text{Sv/h}$)を計測し、放射線がすべてヨウ素であると考えた場合の推定放射線量(Bq/kg)を算出した値です。なお測定値はバックグラウンドの放射線量を測定し補正を行っております。推定ベクレルのゼロはバックグラウンド値と同じかそれよりも分析値が少なく不検出であったことを表します。